

# 計画・交通研究会

Association for Planning and Transportation Studies

## 会報 2013-1

発行日：平成25年1月14日

発行元：（社）計画・交通研究会

### 目次

Opinion ..... 1-2  
異常交通工学のすゝめ

News Letters ..... 2-3  
事業報告・活動報告

Backyard ..... 4  
事務局通信

## □ Opinion

## 異常交通工学のすゝめ

朝倉康夫  
東京工業大学 教授

伝統的な交通工学は、円滑、安全で環境に負荷の少ない交通システムのデザインのための基礎研究を扱うものである。モータリゼーションとともに進化した交通工学の対象は「平常時交通」で、繰り返し発生する事象への対応が主体であった。混雑・渋滞や環境対策はもちろんのこと、交通事故を扱う場合でも、日常的に頻発するタイプの事故を想定した研究や施策が議論されてきた。つまり、交通システムの供給条件はおおむね正常であるという想定の下で、繰り返しのある日常的交通がもたらす諸問題が交通工学の主な検討対象であった。交通工学に限らないが、稀にしか発生しない事象は、観測、モデル化、検証が困難で科学的な研究対象として取り扱いが難しく、挑戦することに躊躇することも理解できる。そもそも、交通需要が増大し続ける中では、平常時交通の範囲内で生じる諸問題の解決に焦点が当てられることは社会的に適切であった。需要の減少や不足により生じる諸問題の研究も、平常時交通工学の範疇にあることに変わりはない。

もちろん、従来の交通工学の範囲内にある問題が解決されたとは言えないし、その部分が最も本質的であることに変わりはない。しかしその一方で、従来の交通工学ではあまり検討されてこなかった領域の問題にも積極的に目を向け、新たな展開を図るべきではないだろうか。

図は、需要が日常的か非日常的か（または繰り返しのある行動か否か）という軸と、供給システムが正常か否かという軸で交通工学の研究テーマを整理し、フロンティア領域を考えようと試みたものである。第1象限は供給システムが正常に稼働している中で繰り返しのある需要、言い換えれば、日常的行動がもたらす様々な交通問題を扱う領域であり、伝統的な交通工学の主要な対象はここにある。

第3象限の領域はその対極にある。自然災害や大規模な事故により交通システムに障害が発生し、平常時に比べて供給側の機能が低下している中で、繰り返しのない非日常的需要が負荷されるという状況での交通の諸問題を扱うというものである。たとえば、自然災害時の避難・帰宅や物資の輸送に関わる問題がその代表である。残念ながらこの領域の研究蓄積は豊富とは言えず、第1象限の手法の応用で対応できるものでもない。ヒトの行動に限定しても、避難や

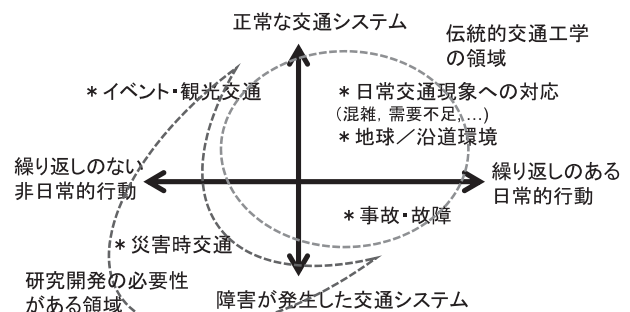


図 交通工学の研究対象

安否確認といった平常時には見られない交通が発生すること、交通システムの機能低下により個人の行動の自由度が大きく損なわれること、情報の不確実性が極めて高くなることなど、繰り返しのある平常時交通の前提としている諸条件とは全く異なるからである。また、災害・事故の種類、被害の大きさ、時間の経過（事前、発災直後、復興期）によって発生する交通が大きく異なることに加え、繰り返しのない、非定常な現象であるがゆえに、これまでの交通工学の知見はそのまま使えない。

困難な課題が多く、十分な研究がなされていないとはいえない第3象限を交通工学のフロンティア領域（のひとつ）と考えてみてはどうだろう。この領域のテーマにいきなり切りこむのではなく、需要か供給か、いずれか一方は平常・正常である場合の問題を検討することから始めることも考えられる。第2象限のテーマは、交通システムは正常であるが繰り返しのない非日常的需要が負荷されることによって生じる諸問題を扱うものである。イベントや季節的観光に伴う交通問題への対応がその中心である。ある種の需要マネジメントである大相撲の弓取り式のような仕掛けや、祭りの雑踏対策からも学ぶことは多いかもしれない。

第4象限のテーマは、需要は日常的であるが

交通システムに障害が発生することによって生じる諸問題を扱うものである。事故や故障で交通ネットワークの機能が低下することは日常的にしばしば生じるが、そのような状況での人々の行動や交通フローの調査・分析の報告事例は必ずしも多いとはいえない。一部の機能が低下したネットワークを効率的に復旧させる手順や必要な需要調整についてもあまり研究されていない。たとえば、米国ミネソタ州で発生した落橋の影響分析では、日々の行動変容を内生化したネットワークフローモデルが提案されているものの行動規範の想定には課題が残されている。交通障害に対する対応について、米国では実務マニュアルであるTraffic Incident Management (TIM) Handbookが作成されているが、わが国ではそれに該当するマニュアルを目にしなない。

もうずいぶんと昔のことになるが、大学の教養課程に「異常心理学」という科目があり、その科目名に大いに引き付けられた。普通ではない状態を扱う交通工学の名称として似合うのは、「異常交通工学」か、あるいは「非日常時交通工学」か。名称はともかく、社会的関心が高いテーマでもあり、若い研究者の挑戦を期待したい。

## □ News Letters

## 事業報告・活動報告 □

### ■2012年11月 計交研・当て塾共催セミナー （第XII講・第12回）

●日時：平成24年11月28日(水)17:00~20:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

①「当て塾」塾長 鈴木忠義 先生

日本の中山間地利用を考える（その10）

②川場視察会報告 視察会参加者

●参加者：12名（うち計交研関係4名）

〔講義概要〕

◆日本の中山間地利用を考える(10)(鈴木忠義)

一川場村の村づくり“わが村 わが庭”一

世田谷区との交流が30年を越えた群馬県川場村の今後の村づくりについて、下記の「計画思考」と「課題の整理」をもとに、村民参加のもとに議論を進めていきたいと考えている。

## 1. 計画思考

- (1) 計画の五要素：主体－目的－対象－手段－構成
- (2) 基本方針（目標） 農業＋観光 他
- (3) 観光の成立 発地（市場）－着地（観光地）
- (4) 基本事項 着地の魅力の造成 他
- (5) 行動 第二主体（村民）の理解 他

## 2. 課題の整理（素案）

- (1) 川場への道 在来線からの利便性
- (2) 村全体の風景計画－調和を大切に
- (3) 用・強・美の調和－全体と各個との関係
- (4) ハード（環境・施設）
  - ①川場村内の道／②民宿／③飲食／④売店／
  - ⑤運動施設／⑥墓地 等
- (5) ソフト－総体として“もてなし”
  - ①雰囲気／②料理／③行事／④工芸 等

### ◆川場視察会報告（視察会参加者）

2012年11月17・18日に行った川場視察会には11名（鈴木先生含む）が参加し、以下のよう  
な感想や問題点、今後の提案等を報告した。

- ・中山間地の“ふるさと”らしさが残る村の自然や風景の魅力と今後の活かし方
- ・一部で観光地化が進み、看板で風景が損なわれている等の問題点と改善策
- ・川場ならではの食と土産品の工夫
- ・連続滞在のための機能や施設の充実 等

### ■2012年11月 計交研・当て塾共催セミナー （第XII講・第13回）

- 日時：平成24年12月12日（水）17:00～20:00
- 場所：計画・交通研究会会議室
- 講師・演題  
栃木県歴史文化研究会 柴田宜久氏  
国立公園制度と日光
- 参加者：18名（うち計交研関係7名）

### 〔講義概要〕

#### ○研究・分析の視点

日光は、俗な言い方であるが、メジャーなところであることから、国や県等によって、いろいろな施策が講じられる。これらの施策が、具体的に、どのように展開されたかという視点から「日光」を論じたいと考えている。

栃木県庁在職中に奥日光地区の活性化事業に携わったことから、国立公園制度に興味を抱いた。国立公園制度が日光においてどのように展開されたかを解明し、「国立公園制度と日光」（その成立と展開）としてまとめたいと考えている。今回はその一部を紹介したものである。

日光は、資源が多い。このため安易な「観光論」と結びつきやすい。結果として、今や三流観光地化している。この日光にとって、国立公園はどのように機能してきたのか？先人は、国立公園という制度をどう消化したのか？このような、多くの疑問点から分析を行った。

#### 〔報告目次〕

序論：「江戸時代の日光」に対する誤解

本論：1明治維新と日光／2保晃会の活動／3外国人の避暑地化／4国立公園運動の嚆矢～帝国議会への請願～／5風景地の利用運動／6日光国立公園候補地調査／【関東大震災のため一時、停滞】／7国立公園法施行（昭和6年）／8国立公園指定（昭和9年）／9戦時体制へ⇒国民の体力強化、厚生省体力局／10占領期／11観光と国立公園のはざままで／○国際観光地「日光」活性化対策事業

むすび：1日本列島は「世界の国立公園」／2その中核は、尾瀬と日光／3修正事業の必要性／4改めて国立公園の本質的論議を！！

（文責：「当て塾」事務局 野倉 淳）

■特別講演会のご案内

当研究会で年末恒例の特別講演会につきましては、ご案内が遅れておりましたが、下記のとおりご案内申し上げます。

参加申し込みは、メールもしくはファックスにて、お早めに事務局までご連絡ください。

|     |                             |
|-----|-----------------------------|
| 日 時 | 平成25年2月1日 (金)               |
|     | 18:00-19:00 講演会             |
|     | 19:00-20:30 意見交換懇親会         |
| 場 所 | 主婦会館プラザエフ (四谷駅前) 千代田区六番町15  |
|     | 講演会 9階 スズラン                 |
|     | 意見交換懇親会 8階 スイセン             |
| 講演者 | 国土交通省 事務次官 佐藤直良 様           |
| 演 題 | 未定                          |
| 参加費 | 講演会 無料                      |
|     | 意見交換懇親会 3,000円 (会場受付で領収書発行) |

■事務所移転のお知らせ

昨年春の理事・評議員合同会議での審議にもとづき、事務所経費の削減のため、当研究会の現在の事務所を今春3月に移転することになりました。

移転先は、下記となります。

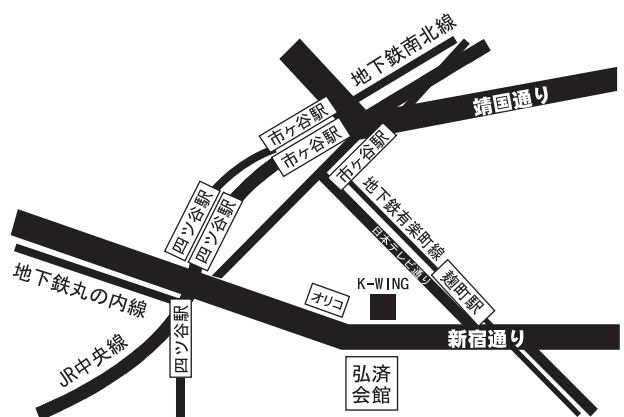
千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル 5階

移転の日程、事務所の利用方法、電話・ファックス・メール・口座等の変更などの詳細については、あらためてご連絡申し上げます。

(社) 計画・交通研究会

|         |        |
|---------|--------|
| 会長      | 森地 茂   |
| 副会長     | 石田 東生  |
| 副会長     | 家田 仁   |
| 副会長     | 屋井 鉄雄  |
| 事務局長    | 水野 高信  |
| 会報編集委員長 | 日比野 直彦 |

〒102-0083  
 東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F  
 TEL=03-3265-1774  
 FAX=03-3221-5489  
 E-Mail=  
[jimukyoku@keikaku-kotsu.org](mailto:jimukyoku@keikaku-kotsu.org)  
 Homepage =  
<http://www.keikaku-kotsu.org/>



(社) 計画・交通研究会案内図

交通

JR中央線四谷駅麹町口から徒歩6分/地下鉄丸の内線四谷駅徒歩6分/南北線四谷駅徒歩7分/有楽町線麹町駅4番出口より4分  
 弘済会館前の大きなビル(オリコ)の右隣、1階にドラッグストア(クスリ)の入った小さなビル。